

戦後70年。 今、平和について考える

第二次世界大戦終結から70年。戦争体験をじかに伺う機会が減りつつあります。戦争について学ぶことは、平和の尊さを知るはじめの一步。明治学院大学には平和について共に考える国際平和研究所があります。今だからこそ、国内外に目を向け、耳を傾ける機会を持ってみませんか。

人類の平和への努力を学び、戦争・暴力を拒む 明治学院大学国際平和研究所の取り組み

国際平和研究所長 高原孝生



PRIME
INTERNATIONAL PEACE RESEARCH INSTITUTE,
MEIJI GAKUIN UNIVERSITY

国際平和研究所 (PRIME)とは
国際ネットワークを活用し、開発、貧困、人権、環境等を含む平和学を研究しています。原子力災害、核軍縮、紛争の非暴力的解決、平和教育等の研究プロジェクト推進、公開研究会なども開催。研究紀要「PRIME」や「南を考える」を刊行しています。

国際平和研究所（「平和研」[PRIME]）は、「平和の諸条件を探る」研究・教育機関として、一九八六年に発足しました。この年は国連が定めた「国際平和年」。国際学部が第一期生を受け入れた年でもあります。

その後、世界は冷戦の終結という大きな節目を経ましたが、未だに安定した平和への道を歩んでいるとは言えません。むしろ、五年前には想像されていなかったような紛争が、東アジアに限られず、シリア、ウクライナをはじめ、世界の各地でみ

れるようになっていきます。

核兵器に代表される「種としての人類」の存続自体を危うくするような破壊力の蓄積さえ解決できぬまま、前例のない気候変動や、未知の感染症といった新たな地球的脅威が、現実のものとして迫っています。私たちは本当に、人類史の分かれ道に直面していると言っても過言ではありません。

そして七〇年前の戦争を反省し、憲法によって政府の武力使用を強く自制して、今や「平和」こそが日本のブランド、とまでいわれるように

なったはずのこの国もまた、いま岐路に立っています。
**自分らしく生きられる世界を
求める平和研究**

「平和」とは、一人一人の人間、とくにこれからの世代である学生たちが、暴力に脅かされずに伸び伸びと自分らしく生きることです。限りあるおのれの生をふかく愛し、他の命ある存在との間にゆたかな共存共生の関係をむすぶことができる、そうした平和な世界を求めて営まれるのが、平和研究です。

国際平和研究所は、大学の研究・教育機関として、国境を越えて連携をとりながら活動が続ける（名称に「国際」を冠しているのは、そのためです）とともに、学生・市民に開かれた研究会やセミナーも、積極的に開催してきました。

例えば昨年度は、ビキニ事件六〇周年ということで、東京の夢の島にある第五福竜丸展示館と協力し、事件とその意義をふりかえる連続講座を実施しました。また恒例の国際シンポジウムでは、再燃している「領

土問題」を、ロシア、中国、韓国の研究者を招いて議論し、さらに大学自治・言論の自由が脅かされている状況や、食の安全等々についても、セミナー等を開いています。
歴史を踏まえ、和解と友好、非軍事化を追求

七〇年前、悲惨な沖縄戦のさなか、サンフランシスコに諸国代表が集い「われらの一生のうち二度まで言語に絶する悲哀を人類に与えた戦争の惨害から将来の世を救う」べく新しい世界秩序を構想し、国連が生まれました。わが日本国憲法の平和主義は、この思想水脈の上にありま

す。
科学者たちが戦争の廃絶を訴えたラッセル・アインシュタイン宣言から今年で六〇年。戦争を筆頭とする地上のあらゆる暴力の最少化を求めて、本年も国際平和研究所は、東ア

ジア地域における友好和解の追求、軍事支出の削減と民生転換、公文書管理と情報公開、等々のアクチュアルな問題に取り組めます。「すべて美しいものに出会い、そしてかくされた悪を注意深くこぼむ」(谷川俊太郎「生きる」)、そんな一人一人の生命の尊厳を守ろうとした先人たちの努力と勇気を学び、平和を希求していきます。



連続市民講座「いま水爆の時代を問う～核と向き合い明日へ～」第4回「核兵器と科学者、市民、被ばく者」



2014年度白金祭では特別イベント「アンネ・フランクパネル展」を開催。多くの来場者が熱心に見ていました



国際平和研究所ではシンポジウム、授業、スタディーツアーなども行っています。ぜひご参加ください。

平和について共に考えよう

沖縄国際大学図書館「米軍ヘリ墜落事件関係資料コーナー」で資料に見入る明学生たち



シンポジウム
「いま沖縄で起きていること」
どこへ行く日本、どうするあなたは？」

力づくで進められる辺野古の新基地建設に抗い続ける沖縄の人びとの憤りや悲しみ、その地へよせる想いを考えたことがありますか。沖縄は何を問うているのか、基地問題の根底にある日米安保条約や日米地位協定の問題は何か。沖縄の人びとと自分自身との関係を問い直し、何をすべきで、何をすべきでないのかを熟考することが、私たちに求められています。沖縄に関わってきた方々や学生とシンポジウムを開催します。

Café du PRIME

私たちにとって大切な問題について、昼食をとりながら、意見交換し学ぶ会です。学外からゲストを招いて話を聞いたり、教員や職員も加わって、関心ある事柄について発表したりしています。学部や学年を越えて、気軽に参加してみませんか。事前申込み不要です。



- 日時：7月11日(土) 13:00～17:00
- 場所：白金キャンパス2号館2101教室
- 内容：【第1部】学生報告：沖縄について(辺野古での基地建設反対活動に関して) 【第2部】前泊博盛氏(沖縄国際大学教授)講演：「沖縄基地問題～問われる日本の民主主義と安全保障～」 【第3部】パネルディスカッション



学びを深めて行動へ

昨年履修しました。講師が多様な角度から考えることができました。何より核被害が今もなお続いていることを実感しました。戦後70年を迎える今、私たち若い世代が被爆体験を学び伝え、行動していかなくてはと思うようになりました。西堂杏菜(国際4年)

- 日時：毎週火曜日
昼休み(12:25～13:25)
- 場所：横浜キャンパス8号館821教室
- 共催：国際平和研究所、学生任意団体「Peace☆Ring」

気軽に参加しています！

学生任意団体「Peace☆Ring」との共催で、火曜日のお昼休みに開かれます。お昼ご飯を食べながら、社会問題や平和について考え、意見を交わします。学部学年を超えて気軽に参加でき、教職員や地域の方がみえることもあります！

芹澤麻由(国際3年)

- 期間：2016年2月下旬～3月上旬を予定 ※約2週間滞在
- 定員：10名
- 訪問先：フィリピン東西ネグロス州
詳細は10月頃、ポートホボンでお知らせします。



NGOの活動などを見学するといったスタイルではなく、多様な問題に抗う人びとと共に、動いて見て、触れて、感じて、熟考して、学び合うスタディーツアーを実施します。現地の青年たちと一緒に、困難に直面する人びとの家庭に泊めてもらい、現状や問題解決に向けた取り組みについて知ると同時に自分自身との関係性について考えます。

広島・長崎講座

国際平和研究所は授業「現代世界と人間4(広島・長崎講座)」を提供しています。ゲストも含む複数講師がリレー形式で、原爆投下から歴史と現在を再検討します。原爆被害の実態、核軍備競争と軍縮への努力、核実験、原発の危険性などを学び、受講者が加害の歴史も心に刻みつつ、海外の友人にヒロシマ・ナガサキを語れるようになることが目標です。

- 授業名：「現代世界と人間4(広島・長崎講座)」
- 開講情報：秋学期・木曜5限、横浜キャンパス
- 担当教員：渡辺祐子教授(教養教育センター)、高原孝生教授(国際学部)

スタディーツアー フィリピン エクスプロージャー